

令和8年3月17日(火)

校長 福沢 俊之

TEL 03 (3831) 3787

学校ホームページ



<https://www.taito.ed.jp/1320111>

↑更新中

おかちまち
たいとう

「15年」という時間

校長 福沢 俊之

先週、テレビのニュースやドキュメンタリー番組で、15年前に東北地方を中心に未曾有の被害を引き起こした「東日本大震災」の被災地の復興状況と被災した人たちの「今」を伝えていました。11日の新聞には「もう、まだ、15年」という見出しがありました。時間の経過と今の思いは人それぞれであることが、その記事から分かります。私は地震が起こったその日は、東京都庁第二庁舎の26階に勤務をしていました。建物がゆっくりと大きく揺れて、机やキャビネットが動き出しただけでなく、普段は決して見えない庁舎の1階根元部分がはっきり見えて、このまま折れるのではないか、という恐怖を感じたことを思い出します。あらためて15年という時の流れを考えたとき、そういえば、これから卒業式を迎える三年生は15歳なのだ、と気づきました。

東日本大震災が起こったのは、平成23年3月11日です。三年生の大半は、社会全体が大災害による被害の現実をどう受け止めたらいかを考えているとき、すでに生を受けていた最後の世代です。そう考えると、一つの時代の節目を感じます。

さて、いよいよ明日、第24回卒業式を挙行いたします。卒業式は、中学校の全課程を修了した生徒一人ひとりに卒業証書を渡して、その成長を保護者の方々と祝い、また、地域の方々にも披露して一緒に祝っていただく儀式(セレモニー)的行事です。したがって、「三年生みなさんの卒業式ではあるけれど、あなただけの卒業式ではない。」ということです。9年間の義務教育の区切りとなる中学校の卒業式です。新しい生活への意欲を沸き立たせ、困難なことがあっても自分の志を果たすために努力する、そうした決意を新たににする機会にしてほしいと思っています。だからこそ、厳粛な雰囲気の中で整然と行き、清新な気持ちで臨む場にしていきたいと考えています。

ただ、このような式の中でも、一人ひとりが主役になる場面があります。それが証書授与の場面です。名前を呼ばれ、返事をしてから証書を受け取るまで、儀式としての作法があります。その作法に従って振る舞う一人ひとりの凛とした姿は、見ている保護者や来賓の方々に、「これなら社会のどのような場に出ても通用する」といった確かな手ごたえを感じさせることでしょう。そして、洗練された振る舞いの中にこそ、際立って目立つものではないけれど、一人ひとりの個性や成長が見られるはずだ、と思っています。

三年生、一人ひとりの姿をもって、御徒町台東中学校、令和七年度の卒業生としての背中を一年生、二年生に見せてくれることを期待しています。

1年間、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただきましたことに心より御礼申し上げます。

表彰生徒

令和7年度 体育優良生徒

体育優良生徒は、学業及び人物共に優秀で体育的行事や体育に関わる学習、特別活動等に優れた成果をあげた生徒におくられます。

3年1組

3年3組

令和7年度 産業教育振興会優良生徒

産業教育振興会奨励賞は、学業及び人物共に優秀で産業教育・情報教育に関わる学習、特別活動やボランティア活動等に優れた成果をあげた生徒におくられます。

3年1組

3年2組

令和7年度 第75回東京都公立学校美術展覧会

書写	1年3組	2年3組
	3年1組	
美術	1年1組	1年1組
	1年3組	1年3組
家庭	1年1組	1年2組
	2年4組	2年4組
	3年1組	3年3組
技術	1年2組	1年3組

作品展示発表会

